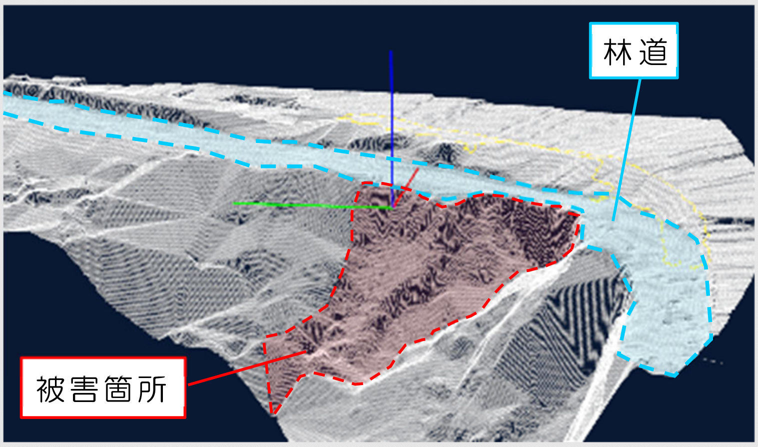
事例 28　モバイル端末を用いた LiDAR 計測による現地測量作業の効率化

（四国森林管理局）



・高知県香美（かみ）市　桑ノ川（くわのがわ）林道
・（左）地上レーザ測量の様子（令和７（2025）年２月）
　（右）測量地の三次元データ（地盤・点群カラー）（令和７（2025）年２月）

国有林野事業では、効率的な業務の実施に向け、デジタル技術を活用した現地測量や森林調査に取り組んでいます。

四国森林管理局では、災害等により被害を受けた林道の復旧工事に着手するに当たり、地上レーザ測量機器を用いた現地測量技術の実証を行いました。測量の際には、中長距離 LiDAR※技術を使用し、レーザ照射によって現地の三次元データを取得することにより、中心線測量後にポール等を用いて実施する従来の横断測量では 2 時間程度時間を要していた現地作業を 10 分程度で終えることができ、作業効率が大幅に向上しました。

また、レーザ測量機器では、被害箇所から離れた場所からでも測量が可能なため、崩壊箇所等の危険な足場での作業を回避できるようになり、調査の安全性向上にもつながります。

同局では、引き続き管内各署での実証を重ね、現地測量作業の効率化に取り組んでいきます。